

令和6年度
広島県瀬戸内高等学校一般入学試験問題

国語

(50 分)

..... 注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開いて見ないこと。
2. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。
3. 問題・解答用紙に落丁、乱丁、印刷不明な箇所があれば申し出ること。
4. 問題・解答用紙の指定欄の太枠内に、受験番号を忘れずに記入すること。
5. 問題・答案は試験終了後、監督員の指示によって回収するので、終了の合図までそのまま静かに着席していること。
6. 余白は自由に使って良い。

受験
番号

--

【一】次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

記者会見やインタビューで、ずいぶん「本当に人見知りだったら人前に入る職業やらないでしょ？」と聞かれた。

そういう質問をする人は根本的に人見知りを理解していない。その時は説明するのがめんどくさいから適当にはぐらかしていたけど、
ぼくは本当の人見知りこそ人前に出てくるものだと思っている。

人嫌い與人見知りは違う。

本当は人に近付きたい、でも近づいて嫌われたくないという自意識過剰な人が人見知りになる。人見知りは周りに人が少ないから
[] を勝手に抱き始める。そうなると誰かに理解して承認してもらいたくなる。承認欲求が芽生えたと表現なんぞを始める。だから、
意外と重度の人見知りこそいけしゃあしゃあと人前に出て表現したりするものなのだ。

インタビューで「この本が売れたら、ぼくと話が合う人がこんな世の中に少ないわけないと思うんですよ。だから、売れないと思
いますよ」とよく言っていた。これは照れ隠しとかじゃなくて本心だった。だってフダンaから「そうだそうだ。君の言う通りだ」なんて
言われてたらみんなの心に刺さって売れる気もするだろうが、そんなことは言われたことが無い。いつも「めんどくさい」と言われま
すからね。

だからこのコラムも、もしかしたらダ・ヴィンチ*1の読者の中にぼくと似たような人がいるかもしれない。そんな人に万が一にでも当
ればいいなと、まるで暗闇に全力で投げつけるように書いてきた。

《 》、握手会やツイッターで「共感しました」という感想は予想以上に多かった。「こんなに共感しましたという人がいるなら、
なぜぼくにはこんな話の合う人が少ないのだ」と言ったら「②そんな人は人付き合いが苦手で人が集まる場所に出てこないから、フ
ン出会わないんじゃないですか？」と言ってた人がいて納得してしまった。

ツイッターで、まだ本を読んでいない人によく質問されていたのが「この本を読んだら人見知りが治りますか？」とか「真つ当な社会
人になれますか？」とか「ポジティブになれますか？」という質問。これすごく多かった。

自称読書好きのぼくからしたら、読む前からそんなのはわからないよ。と思う。

あと、本好きからもう一言。これをダ・ヴィンチに書くのは勇気がいるけど本一冊で人格が変わるほど甘くはないよ。本は本気で何か
をしたい人間にとっては杖やビート板③のような役割をすることはあるけど、本だけの力で人間を変えることはできないと思う。④だから、
とめどなくダイエツト本が出ては売れるし、自己啓発本も売れる。本当に変われるのなら、一冊出版されたらその一冊以降売れない筈はず。やっ

ぱり本人の意思と行動ありき。本は杖やビート板。

そして、性格って変えなくていいと思うんですよ。この本を読んできた人の手紙に「昔からずっと考え過ぎとかネガティブ過ぎるって言われて、^⑤そんな自分が嫌でした」ってたくさん書いてあった。ポジティブな人ってさ、ネガティブな人をポジティブな思考に変えようとするけどそれ違うんだよ。

^⑥ ぼくらのような人間はネガティブで考え過ぎな性格のまま楽しく生きられるようにならなきゃいけないんですよ。前にも書いたけど性格は形状記憶合金のようなもの。なかなか変えられない。だから、変えるんじゃなくてコントロールできるようになればいい。一人である暇な時に限ってネガティブの穴にハマることが多い。そんな時、^{※2}鳥瞰図的な視点で自分を見てみるとただソファに座ってたりベッドに横になってたりするだけなんですよね。心は荒れてるかもしれないけど、何も起きてないんですよ。だから、大丈夫なんですよ。そんな時は自分と思考を繋ぐクラッチを外してシユミや家事に没頭してみたり。それを何千回と繰り返すうちに癖になって、なんとなくネガティブといい付き合いができるようになる。ぼくは自分を変えるなんてめんどくさいこと、だいぶ前に投げ出しちゃいました。

(若林正恭著 『社会人大学人見知り学部卒業見込』より)

※1 ダ・ヴィンチ — 筆者が連載している雑誌。

※2 鳥瞰図 — 空中から地上を見おろしたように描いた図。

問一 { } a ~ d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

問二 [] に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 優越感 イ 劣等感 ウ 孤独感 エ 親近感

問三 《 》 に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア だけど イ しかも ウ そして エ たしかに

問四 ——— ①「まるで暗闇に全力で投げつけるように書いてきた」とありますが、この表現にはどのような思いが込められていますか。

その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 対象がはっきりせず届くかどうか分からないが、自分の体験を正確に表現することで誰かを救いたいという思い。

イ 対象がはっきりせず届くかどうか分からないが、自分がこれから先どうするべきかという道筋を見つけたという思い。

ウ 対象がはつきりせず届くかどうか分からないが、自分の考えが誰かには届いてほしいという思い。
エ 対象がはつきりせず届くかどうか分からないが、自らの辛い経験を誰かに伝えたいという思い。

問五

——②「そんな人」とはどのような人を指しますか。その内容を文章中から八字で抜き出して書きなさい。

問六

——③「杖やビート板のような役割」とはどういう役割ですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア それだけでは前に進ませる力はないが、前に進もうとする人に対しては大きな助けになるような役割。

イ それだけでは前に進ませる力はないが、きつと上手くいくという絶大な安心感を与えてくれるような役割。

ウ それがあるだけで、どんな困難なことであつてもすんなりと乗り越えていけるような役割。

エ それがあるだけで、物事を初めて行う初心者にとって大きな手助けとなるような役割。

問七

——④「だから、とめどなくダイエット本が出ては売れるし、自己啓発本も売れる。」とありますが、それはなぜですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 同じ問題を取り扱った本でも日々新しい解決法が考えられているため、現状よりも良い解決法を知りたいと思つて別の本を買い求めるから。

イ 同じ問題を取り扱った本でも筆者によつて考え方が異なるため、別の考えを知りたくなつて別の本を買い求めるから。

ウ たとえ本を読んだとしても書いてあることを実行できない人が多いため、自分ができる方法を求めて別の本を買い求めるから。

エ たとえ本を読んだとしても書かれている内容には間違いがあるため、正しいものを求めて別の本を買い求めるから。

問八

——⑤「そんな自分が嫌でした」とありますが、自分のどのような性格が嫌だったのですか。十字以内で書きなさい。

問九

——⑥「性格は形状記憶合金のようなもの」という表現で使われている表現技法として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 倒置法

イ 擬人法

ウ 直喩

エ 隠喩

問十

——⑦「だから、大丈夫なんですよ。」とありますが、なぜ「大丈夫」だと言えるのですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 自分にとってストレスとなるような嫌なことがあったとしても、身体が健康であれば前向きにどんなことでも取り組んでいけるから。

イ 自分にとってストレスとなるような嫌なことがあったとしても、自分が生きていけなくなるような大きな出来事は起きないから。

ウ 自分にとってストレスとなるような嫌なことがあったとしても、考えなければ何も起こっていない状態であると言えるから。

エ 自分にとってストレスとなるような嫌なことがあったとしても、ポジティブに生きてさえいけばいずれ良いことが起こるから。

問十一 筆者の考える「人見知り」の特徴として適当なものを次のア～オの中からすべて選び、その記号を書きなさい。

ア 優しい性格である。

イ 付き合いが苦手で人が集まる場所に出てこない。

ウ 自意識が過剰である。

エ 人前に入る職業に就かない。

オ めんどくさいことが嫌い。

【二】 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

出版社の辞書編集部に所属している「馬締まじぶ」と「西岡にしおか」は、辞書の『大渡海おほなつみ』の編纂へんさん（さまざまな材料を集め、整理や加筆などをして書物にまとめること）をしている。西岡は馬締の能力の高さに劣等感を抱き、辞書編集部での自分の存在意義が見いだせずにいる。次の場面は、二人が「西行」の項目について検討しているところである。

西岡は書棚しょだなから、『日本国語大辞典』のうちの一冊を取ってきた。「さいぎょう【西行】」の項を引く。馬締の言うとおり、人名の説明だけではなく、人物としての西行から派生したさまざまな意味が載っていた。*1西行法師が人々に親しまれ、後世にいたっても身近な存在である証だろう。

「ほかには？」

① 馬締を試してみたくなり、西岡は『日本国語大辞典』を隠し見しつつ質問した。

「タニシなどのことも、『西行』と呼ぶことがあった気がしますね。能にも『西行桜』という作品がありますし、笠*2をあみだにかぶることは『西行被かき』、風呂敷包みを斜めに背負うことは『西行背負しよい』。『西行忌き』についての説明も必要かもしれません」

『日本国語大辞典』だけではなく、『広辞苑』『大辞林』も駆使し、西岡は馬締の発言を検証する。「すごい」を超えて、空恐ろしい感じがした。
「……まさかおまえ、いろんな辞書の中身を全部覚えてんの？」

「それができればいいんですけどねえ」

馬締は申し訳なさそうに身を縮めた。「ところで、『西行』のすべての意味を載せることは、スペース的に無理そうです。西岡さんは、『大渡海』にどの意味を載せるのがいいと思われませんか」

「『遍歴するひと、流れもの』と『不死身』」

「……なぜ？」

馬締にオダaやかに問われ、西岡は腕組みして天井を見上げた。単なる直感だったので、改めて聞かれると困る。

「強しいて言えば、笠や風呂敷を使うひとは、いまはあんまりいないから。でもまあ、俺が風呂敷包みを斜めに背負って歩いてたとする。友だちにばったり会って、『それって、西行背負いだね』と言われたとする」

「そんな状況は、万にひとつもない気がしますけれど」

「あくまで仮定の話だ。言われた俺は、『そうか、この背負いかたを西行背負いというのか』と思う。また、こういうパターンも考えられる。会社から、『明日は全社員、西行背負いで出勤するように』と通達される」

「そんな状況は、億にひとつもない気がしますけれど」

「仮定の話だって言ってるんだろ。通達を受けた俺は、『西行背負いってなんですか？』と聞くだろう。説明されれば、すぐに理解できる。

《『西行背負い』や『西行被かき』は、文脈から言葉の意味を推測しやすいし、意味を知っているひとから説明を受ければ、どう
いうか恰好かっこうなのかイメージしやすいんだ」

「なるほど。『西行背負い』や『西行被き』を、わざわざ辞書で調べる必要性は低いだろう、ということですね」

「ああ。『西行桜』も、その言葉を目や耳にした段階で、能の演目だとわかる確率が高い。なんの前振りもなく、いきなり『西行桜ってさ』と話したり書いたりすることは少ないはずだからな。能に関係する言葉だと推測できさえすれば、あとは『能楽事典』でもなんでも引けばいい」

「『西行忌』も、字面から意味を推測しやすいですね。ただそうになると、タニシを『西行』と呼ぶことは？ きわめて意味を推測しにくいですが」

「まず、現代人はタニシを西行とは呼ばねえよ。呼んでるやつがいたら、『なんのこと？』って聞きゃあいんだ」

②「乱暴ですね」

馬締は愉快そうだ。「i」西岡はかまわずに持論を披露する。

「だけどさ、『西行』に『不死身』って意味があることは、『富士見をする西行』の説明も含めて、どうしても記載が必要だと思う。たとえば、『俺は西行だ、ふははは』って文章に行きあつたときに、『西行＝不死身』と知らなければ、まったく意味が汲み取れないからな」

「同じ理由で、『遍歴するひと、流れもの』も載せるべきだと思うんですね？」

「それもあるけど……」

西岡はやや迷つたのち、つけ加える。「実際の流れものが、図書館なんかで、なんとなく辞書を眺めてるところを想像してみろよ。『さいぎょう【西行】』の項目に、『西行が諸国を遍歴したこと』から『遍歴するひと、流れもの』の意』って書いてあるのを発見したら？ そいつはきつと、心強く感じるはずだ。『西行さんも、俺と同じだったんだ。大昔から、旅をせずにはいられないやつはいたんだ』って」

西岡は頬のあたりに視線を感じ、隣を見た。馬締がいつのまにか事務用椅子を回転させ、西岡に向き直っていた。

「そんなふう考えたことはありませんでした」

馬締の口調は□を帯びている。西岡は照れくさくなり、あわてて言い添えた。

「辞書に言葉を採用する基準としては、まちがってると思うけどな」

「いいえ」

馬締は真剣な表情のまま、首を振った。「西岡さん。俺は、西岡さんが異動になること、本当に残念です。『大渡海』を血の通つた辞書にするためにも、西岡さんは辞書編集部に絶対に必要なひとなのに」

「ぶあーか」

西岡は素っ気なく言い、馬締の手もとから原稿をかすめ取った。馬締が赤鉛筆で書いた修正案をもとに、教授に確認のメールを打つ。なるべくまばたきを減らして、パソコンの画面を見据えるようにした。うつかりすると泣いてしまおうだ。「ii」うれしかった。もし、馬締以外のものが言ったのなら、同情か心にもない慰めだと受け取っただろう。西岡にはわかった。馬締の言葉は真情から発されたものだ。

西岡は馬締のことを、辞書の天才だけどヨウリヨウが悪く、自分とはまったく通じるところのない変人だと思ってきた。いまだって、そう思っている。学生時代に馬締が同じクラスにいても、まずまちがいがなく友だちになることはなかったはずだ。

そんな馬締の言葉だからこそ、西岡は救われる。ヨウリヨウが悪く、嘘もおべっかも言えず、辞書について真面目に考えるしか能のない馬締の言葉だからこそ、信じることができる。

俺は必要とされている。「辞書編集部の無駄な人員」では、決してなかった。

「iii」こみあげる誇り。

馬締はいえば、いま自分が西岡を救ったのだとは夢にも思わぬ風情で、もどおり机に向かっている。左手で髪の毛をかきまわしながら、べつ原稿を赤鉛筆で修正している。心を率直に表明する以外の方法を知らない馬締にとっては、最初の発言もちつとも気恥ずかしいものではないらしい。「iv」西岡など、うれしいけれどすぐたたくて、くねりそうになっているというのに。

まったく馬締は無敵だ。

西岡はつくづく、そう思い知らされたのだった。

(三浦しをん著 『舟を編む』より)

※1 西行法師 | (一一一八―一一九八) 平安後期の歌人・僧のこと。

※2 笠をあみだにかぶる | 日光・雨・雪などが当たらないようにした帽子の前を上げて、斜めに傾けてかぶること。

※3 遍歴 | 広く各地を巡り歩くこと。

※4 流れもの | 土地から土地へと渡り歩く者。

※5 真情 | うそ偽りのない気持ち。

問一 ~~~~~ a ~ d のカタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなにそれぞれ直して書きなさい。

問二 《 》に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア たしかに イ つまり ウ だけど エ また

問三 □に補うべき語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 熱 イ 色 ウ 魂 エ 光

問四 次の一文を補うのに最も適当な箇所を文章中の「i」「iv」の中から選び、その記号を書きなさい。

そう知ることの喜び。

問五 — ①「馬締を試してみたくなり」とありますが、西岡はなにを試してみたくなったのですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 馬締がさまざまな辞書の内容を、全て記憶しているのかということ。

イ 馬締が『日本国語大辞典』の内容を、全部把握しているのかということ。

ウ 馬締が「西行」という人物について、正しく理解しているのかということ。

エ 馬締が「西行」という言葉の意味について、どのくらいの種類を知っているのかということ。

問六 — ②「乱暴ですね」とありますが、なぜ馬締は乱暴と感じたのですか。その理由として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 言葉の意味を扱う辞書を作っているのにも関わらず、責めるような口調で、起こりうる可能性の低い仮定の話を持ち出したから。

イ 言葉の意味を扱う辞書を作っているのにも関わらず、根拠のない理由を持ち出し、他人に質問するという解決策を提示したから。

ウ 言葉の意味を扱う辞書を作っているのにも関わらず、言葉の意味をはき違えており、他の方法で調べよう促す発言をしたから。

エ 言葉の意味を扱う辞書を作っているのにも関わらず、意味は文脈から想像できるといふまちがった採用基準で考えているから。

問七 — ③「血の通った」とありますが、これはどういう意味ですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 言葉の意味を扱う辞書を作っているのにも関わらず、これはどういう意味ですか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

イ つまり

ウ だけど

エ また

問四 次の一文を補うのに最も適当な箇所を文章中の「i」「iv」の中から選び、その記号を書きなさい。

そう知ることの喜び。

ア 馬締がさまざまな辞書の内容を、全て記憶しているのかということ。

イ 馬締が『日本国語大辞典』の内容を、全部把握しているのかということ。

ウ 馬締が「西行」という人物について、正しく理解しているのかということ。

エ 馬締が「西行」という言葉の意味について、どのくらいの種類を知っているのかということ。

ア 編集者の豊かな経験が刻まれた。

イ 編集者の身勝手な考えが反映された。

ウ 編集者の誠実な想いがこもった。

エ 編集者の激しい情熱が渦巻いた。

問八

——④「素っ気なく言い、馬締の手もとから原稿をかすめ取った」とありますが、ここから西岡のどのような心情がわかりますか。その説明として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 単なる直感で提案しただけであったが、馬締が真剣に受け取ったので残念に思っている。

イ 馬締から率直な称賛の言葉を受けて感激したが、それを悟られたくないと思っている。

ウ 自分が自信をもって提案したことを、馬締にからかわれたと恥ずかしく思っている。

エ 馬締のこだわりの細かさに一目置いており、自分も同様のことがしたいと思っている。

問九

——⑤「嘘もおべっかも言えず」とありますが、「嘘もおべっかも」言えないのはなぜですか。解答欄に合うように文章中から二十字以内で抜き出して書きなさい。

問十

次の会話は馬締と西岡の人物像について話し合った生徒の会話です。Ⅰ・Ⅱにあてはまる語句を文章中からそれぞれ指定された字数で抜き出すことで完成させなさい。

Aさん―西岡は辞書編集部での居づらさを感じていたからこそ、馬締の「Ⅰ 二十二字」という言葉が響いたんだね。

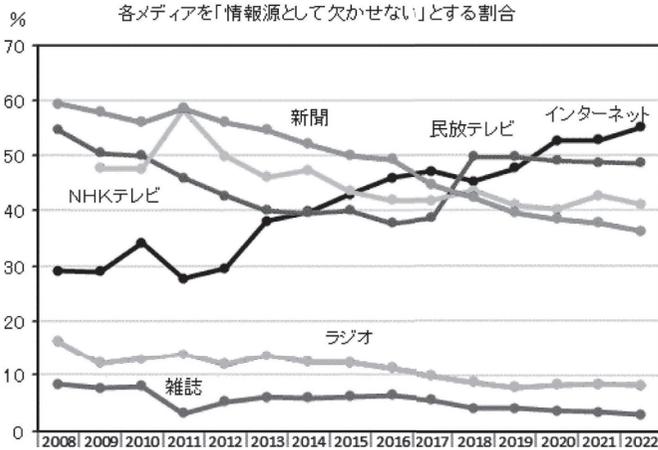
Bさん―そうだね。馬締に劣等感を抱いていたことも関係ありそう。「辞書について真面目に考えるしか能のない」と言っているけど、西岡は馬締のそんな面も評価しているようだね。

Cさん―たしかに。不器用でありつつも、嘘をつくことのできないまっすぐさが自分にないと感しているからこそ、「Ⅱ 十一字」という一文に西岡の馬締に対しての心情が現れているね。

【三】 次の会話はメディアについての資料を見ながら話し合った中学生の会話です。会話をよく読んで後の問いに答えなさい。

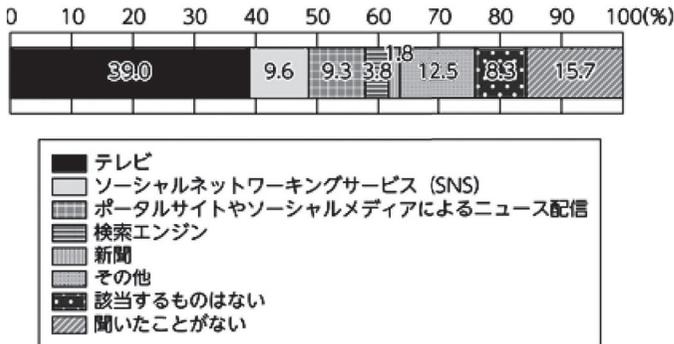
Aさん―資料Ⅰからは、人々がどのメディアから情報を得ているのかという意識の変化が分かるね。四年連続で増加したメディアは

資料Ⅰ メディアに関する全国世論調査



(出典) 新聞通信調査会 「メディアに関する全国世論調査」

資料Ⅱ 人々が最初に偽情報を入手したメディア



(出典) 総務省 (2021) 「ウィズコロナにおけるデジタル活用の実態と利用者意識の変化に関する調査研究」

「 i 」だね。最近パソコンや通信ネットワークなどのデジタル技術が発達していることが、増加に影響しているのかな。

Bさんー二〇一一年は、「 ii 」の割合が前年より十パーセントほど増加しているよ。増加といえば、前年は四位だった民放テレビが、一位に浮上した「 iii 」年も、資料の大きな特徴と言えるね。

Cさんーメディアの重要度が高まる一方で、情報を正しく見極める力も必要とされているよ。二〇二〇年二月末頃に「トイレットペーパーは中国産が多いため、新型コロナウイルスの影響でトイレットペーパーが不足する」といううわさが SNS で投稿されていたね。

Bさんーうん。うわさはあつという間に拡散されたね。でも、資料Ⅱによると、人々が最初に偽情報を入手したメディアは「 iv 」みたい。

Aさんー確かにそうだね。偽情報に出会っても、うわさを広めないように気をつけなきゃ。

問一 「i」「・」「ii」にあてはまる語句を、資料Iからそれぞれ抜き出して書きなさい。

問二 「iii」にあてはまる語として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 二〇一八 イ 二〇一七 ウ 二〇一四 エ 二〇一〇

問三 「iv」にあてはまる語句として最も適当なものを次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 「SNS」と回答した人の割合が、最も高くなっている

イ 「検索エンジン」と回答した人が、新聞の割合より少ない

ウ 「テレビ」だと回答した人が、全体の約四割を占めていた

エ 「聞いたことがない」と回答した人が、全体の二割未満だった

【四】 次の問いに答えなさい。

問一 次の(1)～(3)の——の誤りを正しく直し、それぞれ漢字で書きなさい。

(1) 私たちは実に寄妙なものを見た。

(2) この成積なら、合格は間違いないだろう。

(3) 苦汁の選択だが、あきらめるしかない。

問二 次の(1)～(3)の「」にあてはまる漢字をア～エの中からそれぞれ選び、その記号を書きなさい。

(1) 朝「」暮四

ア 一 イ 二 ウ 三 エ 五

(2) 日進「」歩

ア 時 イ 月 ウ 年 エ 分

(3) 清廉潔「」

ア 白 イ 青 ウ 黒 エ 紅